

2025年（令和7年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

2025年（暦年）段ボール需要予測 14,000百万㎡ 前年比99.8%

2024年の日本経済は、コロナ禍からの持ち直しにより4～6月期に実質GDP成長率が前期比年率で2.2%となったものの、7～9月期は物価高への懸念やコロナ禍明けのサービス支出の一巡などにより回復ペースが鈍化し1.2%（2次速報値）となった。多くの民間調査機関は昨年12月時点で2024年度の実質GDP成長率を1%程度と予測していたが、現時点では+0.3%程度に予測値を引き下げている。

2024年の段ボール需要については、2023年12月に当連合会は14,200百万㎡と予測したが、1～10月累計実績（10月は速報値）は11,613百万㎡（前年比99.0%）となり、1～12月暦年では14,030百万㎡（前年比98.7%）程度となる見込みである。

2025年度の国内経済は、実質賃金の下げ止まりによる個人消費の回復、非製造業を中心としたインバウンド需要の拡大等により緩やかな回復基調が続くと民間調査機関は予測しており、実質GDP成長率は主要機関の平均で+1.1%程度となっている。

このような経済予測と各需要部門別の動向を検討した結果、2025年（暦年）の段ボール需要を14,000百万㎡（前年比99.8%）と予測した。期間別内訳は景気動向や稼働日数等を考慮して、1-3月期99.5%、4-9月期100.0%、10-12月期99.5%と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」（構成比42%）は、人口減少、物価高、フードロス対応などのマイナス要因がある一方で、個食化によるレトルト食品、インスタント食品の増や万博期間中の人流増も見込まれ、0.5%程度の伸びと予測。

「その他」（構成比18%）は、家庭紙のコンパクト化や段ボールからソフトパックへの移行があるものの、来日観光客の増、またペット関連商品の下支えもあり、前年並みの需要を予測。

「青果物用」（構成比 9%）は、天候は平年並みを見込んだ上で、生産者減少、作付面積減の傾向は継続すると見て、0.5%程度のマイナスを予測。

「電気器具・機械器具用」（構成比 7%）については、民生用電子器具等の逆輸入に伴う国内生産の減少はあるものの、自動車関連における品質・認証見直しによる生産減少からの増産を見込み、0.5%程度の伸びと予測。

「薬品・洗剤・化粧品用」（構成比 6%）は、来日外国人観光客によるインバウンド需要は、コロナ禍前のような需要は少なくモノ消費からコト消費へのシフトが進んでおり、前年並みの需要に留まると予測。

「通販・宅配・引越用」（構成比 6%）は、通販における包装寸法の適正化や紙袋など他の包装材料の使用等の傾向は変わらず、前年微増の 0.5%程度の伸びと予測。

また、「シート出荷」については、これまでの傾向から 2.0%程度のマイナスを見込んだ。

以上

段ボール生産量推移

